

社会福祉法人トラムあらかわ 令和3年度事業報告

法人事業報告

1. 法人事務局の運用体制の確立

主な業務	下半期の計画	令和3年度の報告
①社会福祉法人として地域福祉の責任ある担い手であることを自覚し、その業務の透明性と計画性を明らかにするため、各事業所への巡回を定例化することで状況を的確に把握し、経営改善のための方策を講じる。	荒川ひまわり第2でも事務局の仕事ができる体制を整え、勤務する日を設けることによって実態の把握に努める。	勤務できる体制は整えたが、その後アルバイト職員を雇用したため、勤務する必要性がなくなった。 施設の巡回については多忙のため、定例化させることはできなかった。
②電子データを含む文書の整理に取り組み、情報管理をより確実なものとする。	バックアップについて学習し、施設長会議に諮る。	アゼリアのデータ保存先に不具合が生じたため、法人に導入を予定していたのと同じ機種を導入・設定した（その過程で一定の学習はできた） バックアップ体制に必要な機材購入のための費用を令和4年度予算案に計上し、第7回理事会で承認された。
③各業務担当グループをリーダー会議での進捗管理を通じて統括し、各グループが適切に連携し、また意思決定できるようにする。また、各グループが過負荷とならないように調整する。	リーダー会議での共有の時間を長く確保するとともに、諮るべきことが抜けることがないように各会議の議事録に「諮るべき事項」という欄を設ける。	・「諮るべき事項」欄を設けてからは、諮り忘れることはなくなった。 ・依然として予定通り会議を始められないことが多く、各グループの進捗共有は十分とはいえない。
④事業計画のPDCAサイクルを滞りなく回すために、年間の業務スケジュールを確立する。	年度内に来年度の年間スケジュールを作成する。	作成することができなかった。
⑤会計事務所を変更し、月次決算が可能な体制づくりを進める。	法人本部事業報告<事務局>重点目標①に記載。	法人本部事業報告<事務局>重点目標①に記載。

2. 人材確保と新規事業の検討

主な業務	下半期の計画	令和3年度の報告
①各事業所の業務内容を法人理念や利用者利益の	来年度以降再開するか否かを検討する。	まず中期計画を策定し、その内容によって事業検討ワ

視点から見直し、課題を整理する。		一キンググループ再開の是非を判断することになった。
②法人本部において必要な人員のサポートを素早く行えるように管理及び提案を行う。	状況の把握を進めつつ、来年度の人事体制案を提案する。	施設長会議で各事業所の状況を共有した上で、第6回理事会で諮り、承認された。
③事業検討ワーキンググループが隔月で勉強会を開催し、将来の新規事業の検討に備える。	来年度以降再開するか否かを検討する。	①に記載。

3. 職責に見合った人材の育成

主な業務	下半期の計画	令和3年度の報告
①中長期的な視点から計画的に研修やOJTを実施し、将来及び現在の職責に見合った人材の育成を図る。	人材育成グループの報告に記載。	人材育成グループの報告に記載。
②各事業所だけでなく法人本部からも職員に必要な研修が実施されているか管理及び提案を行う。	終了後、次の更新年度について研修管理シートに反映させる。	終了後、次の更新年度について研修管理シートに反映させる。

4. 障害の特性や多様性に対応した支援の提供

主な業務	下半期の計画	令和3年度の報告
①計画相談や個別支援計画で明らかになる多様な利用者ニーズに応えることができるよう地域支援のネットワークを広げ、会議や勉強会等も積極的に参加、開催する。	引き続き地域の会議に参加する。移行部会では地域移行のニーズ調査のため病院訪問を実施し、荒川区の入院患者の地域移行に向けて活動を行う。	昨年中に地域移行部会としてニーズ調査に参加。病院訪問し入院患者と病院ワーカーと話し合いを持った。数件がアゼリアで継続相談となっている。法人職員は研修等に積極的に参加して研鑽を積んでいる。
②地域の利用者ニーズに答えることができるように、新規事業を検討する。	来年度以降再開するか否かを検討する。	来年度以降中期計画に盛り込むかどうか検討することになった。

5. 法人の事業や歴史の地域への還元

主な業務	下半期の計画	令和3年度の報告
①トラムあらかわの実践で得た人材や支援の成果を講座や勉強会として地域に還元し、その取り組みを様々な形で発信していく。(広報・地域福祉の取り組み)	11月12日の町屋ふれあい館交流イベントに参加。その後にアゼリアを会場として交流のためのワークショップを開く。 2月13日の講演会「社会的処方」に向けて広報をおこない、例	地域福祉グループの報告に記載。

み)	年の方に数名の参加にとどまらないようにする。	
②自立支援協議会や地域移行部会や地域生活支援拠点ワーキンググループへの参加を通して、行政が進めている地域包括ケアシステムの構築に貢献する。	11月に病院訪問を行い、入院されている方のお話を伺い、今後の地域移行への取り組み方法を検討していく。	令和3年度は再び近隣区(足立区、北区、板橋区)の病院に長期入院している方に会いに行ってお話を伺い、退院の意思が聞けた方には地位置移の取り組みを進めた。 対面での訪問が難しい時期はオンラインによる面談で、地域移行への気持ちが続くように働きかけた。
③法人20周年事業実行委員会を立ち上げ、2022年9月に向けて準備を進める。	本理事会でご意見をいただき、それを踏まえて施設長会議等で検討、早めに方針を決める。	リーダー会議が統括し、広報グループで記念号を、各事業所で記念の企画を進めることになった。

6. 法人の事業継続のためのBCPの作成・運用

主な業務	下半期の計画	令和3年度の報告
①昨年度安全衛生担当グループが作成したBCPの運用を開始し、見えてきた課題を計画に反映させていく。	安全衛生グループの報告に記載。	安全衛生グループの報告に記載。
②感染症版BCPを作成することで、緊急時に的確な対応がとれるようにする。	厚生労働省による動画を視聴し、作り始める。	その余裕はなく、令和4年度の安全衛生グループの計画に盛り込むことになった。

法人本部事業報告

<事務局>

主な業務	下半期の計画	令和3年度の報告
①理事会・評議員会運営	引き続き滞りのない運営に努める。	感染状況を鑑みてやむを得ず2回書面開催したが、概ね滞りなく運営することができた。
②法人の現況報告財務諸表公開	来年度に備えて、文書の整理に取り組む。	上半期には財務諸表の公開を済ませることができたが、本格的に文書を整理する余裕はなかった。
③各種監査事務	引き続き法人運営の把握に必要な文書の整理に取り組む。	時間に余裕がなく、文書整理に取り組む余裕はなかった。
④職員の給与労務全般	ミスがないように余裕を持って取り組む。	アゼリアの労務評価時に雇用保険受給要件を満たさなくなった職員がい

		ると指摘を受け、遑って資格喪失手続きをとった上で、本人に返金等の対応をした。
⑤職員採用	必要に応じて対応する。	上半期にアゼリアの欠員補充として1名採用。下半期にアルバイト職員を第2で1名採用した。
⑤固定資産管理	決算時に固定資産の所在確認を行う。	大網白里の草刈りの他、固定資産の所在確認を実施した。
⑥事業所巡回/会議への参加	少なくとも第2の会議にも参加するようにする。 第2でも事務局の仕事ができる体制を整える。	会議への参加はアゼリアをのぞき、あまり参加できなかった。 体制は整えたものの、第2でのアルバイト採用に伴って第2で勤務する必要性がなくなった。

重点目標

目標	下半期の計画	令和3年度の報告
①会計の月次決算を着実に実施していくための体制整備を進める。	上半期の取り組みを活かして、会計処理を効率化する。 負担が増えたとの声も聞かれるため、各事業所への負担が軽減されるように必要なサポートをおこなう。	施設会計の現金出納帳の会計システムへの取り込みはスムーズになったが、授産会計についてはまだ手間取る点が多かった。 各事業所へのサポートは問い合わせがあれば答えるという、受け身な形にとどまった。
②リーダー会議を通じて業務担当グループを統括し、適切に連携・意思決定できる体制を構築する。	法人事業報告「法人事務局の運用体制の確立」に記載。	左に同じ
③月次報告書と課題解決シート、各事業所への定期的な巡回や会議への参加を通じて運営状況を把握し、改善のための具体的な手段を検討・提案する。	法人事業報告「法人事務局の運用体制の確立」に記載。	左に同じ
④年間の業務スケジュールを確立することで、事業計画などのPDCAサイクルを回せるようにする。	年度内に来年度の年間スケジュールを作成する。	時間に余裕がなく、作成することができなかった。
⑤理事・評議員の改選を滞りなく終える。	改選に伴う書類の整理が確実に済んでいるか確認する。	改選手続きを滞りなく終えることができ、書類の整理も完了させた。

<人材育成担当>

主な業務

①職員キャリア管理 業務目標/成長シート管理 ②法人研修企画 研修管理 ③職員業務目標管理 法人担当グループ進捗管理 ④実習生受入れ 実習管理 ⑤書記 (理事会・評議員会)

重点目標

目標	下半期の計画	令和3年度の報告
①より効果的で負担感が軽減される業務目標/成長シートの運用を検討する。	11月 まとめた改善案を施設長会議へ諮る 12月 改善案の運用にむけ準備	昨年度の運用からみえた成長シートの課題について検討・対応をおこなった。 ・使いにくさを指摘された部分を修正。修正案が施設長会議で承認されたため、下半期より修正版の運用開始。 ・管理職の運用が人事考課ツールとして機能していない現状を整理。問題点を施設長会議へ報告。今後の運用方法については現状維持との回答。
②法人に必要な力を見定め、現場で実践できる工夫をこらした法人全体研修を実施する。	10月 「事例検討(アゼリア)」@法人会議 12月 「事例検討(ひまわり)」@法人会議 2月 「事例検討(第2)」@法人会議 3月 振り返り@リーダー会議	新人職員が増えている法人の現状、事例検討の機会が少ないという施設長会議からの意見から、以下の法人研修を実施した。 4月 「法人研修テキスト①」 5月 「法人研修テキスト②」@法人会議 10月 「事例検討(アゼリア)」 2月 「事例検討(ひまわり)」 また、2月に職場内研修担当者セミナーを受講し、法人の研修方針や年間研修テーマを策定する必要性を確認。来年度の課題とする。
③毎月の人材育成会議で法人担当グループと各事業所の状況を確認し、業務量の調整を行いながら各グループの目標達成をサポートする。	会議の開始時間を守ること、会議時間の効率性をあげることによって、上半期にとれなかった共有する時間を作る。	会議の開始時間が遅れることは依然あり。Googleチャットの活用が浸透し、業務全体の効率化が図れているが、法人内の全会議で同様の傾向があるため、法人全体での意識向上が必要か。来年度の課題とする。 また、法人担当グループと各事業所の状況を確認しながら、法人設立20周年事業の統括も担うこととしたため、優先度を上げ取り組む必要がある。
④コロナ禍に対応した実習受入れ、実習生の育成方法を検討・実施する。	10月 ひまわりを加えた3施設で受入再開 2月 振り返り/来年度の計画を作成	年度の受入れ方針を検討し、「各事業所の状況を丁寧に確認しながら、オンライン形式ではなく施設受入れ形式での機会提供を行う」に決定。ひまわり第2が主な受入れ先とし、アゼリアやひまわりでも可能な範囲を都度調整しながら5名の受入れができた。(令和2年度は0名)

<安全衛生担当>

主な業務

①健康診断管理 ②食品・衛生管理 ③BCP

重点目標

目標	下半期の計画	令和3年度の報告
1 職員及び利用者の健康診断を計画的に実施する。	各職員の受診後の経過と、施設長への報告の有無を確認する。	年度内に全職員が健診の受診と施設長への報告を行った。受診率100%は当然のこととして、職員の体調不良が続くことから再受診の促しや年齢に応じた検査の啓蒙など健康への意識向上と更なる体調改善を勧める取り組みが必要との意見が出た。
②職員及び利用者の健康経営改善に取り組み、法人全体の労働生産性を向上させる方法を検討していく(感染症予防や食品衛生実務講習会受講)。	10月～11月オンライン感染予防セミナー(全4回)受講予定。セミナーを通し、実践的な感染予防と感染症の知識の収集を行いつつ、社会的に緩和の動きが著しくなる中で、第6波に向けて緩まずマスク、手洗い、消毒、3密回避など基本の感染予防を促していく。	各施設で分担し、オンライン感染予防セミナーを受講。コロナの流行状況に対応して変化した最新の予防法を学んだ。得た知見を安全衛生会議で共有し、施設内の消毒範囲の要不要の整理や感染症対策の変更を行った。感染予防はその時の状況によって著しく変化していくため、正しい知識と国の感染対策の意向など情報を見極めながら今後も殉難に対応していく。
③各施設の「事故を防ごう！報告表」を管理し、再発防止策を講じた後の経過観察をしていく。	ケース内容の共有は下半期も継続。年度途中から入職した職員へも活用を促す。	安全衛生会議で発生件数の報告と重要度に応じて内容の報告や質疑応答を行った。細やかなことでも書いて周知・共有し、反省して今後活かすという報連相が目に見える形となっているため、新規職員へも浸透するよう引き続き活用していく。
4施設の防災訓練スケジュールを管理し、コロナ禍でも職員と利用者が訓練できる仕組みを確立していく。	全施設合同防災訓練を12月9日に実施する。 第1・2の2回目の防災訓練は、上記全施設合同防災訓練をもってする。例年、職員への防災意識向上をメインとした講座は計画に上がっていたが今回が初めて全施設の職員が参加するものとなる。	12月9日、防災課職員を招き、地震・水害の際に想定される被害状況や避難行動を学ぶ全施設合同の防災訓練を行った。またこれまで役所職員に尋ねる機会がなかった災害時の行動に関する質問や不安についての回答を得た。来年度は警察とも連携して全施設で訓練を行い、感染予防についても各

		施設にて対策を講じることで、利用者や職員がコロナ禍でも活用しやすいように対応していく。
⑤BCP の運用を行いながら安全衛生グループで各施設の訓練に参加し、内容の検討を行って行く。	担当職員の異動や避難場所の変更もあることから最新のものへの更新が必要となることから、作成済の BCP の課題を会議内で洗い出す。上記合同防災訓練を活用しつつ、内容の精査を行う。	洪水時避難確保計画を、緊急連絡網の更新に加えてコロナ禍に則した避難行動に修正して、再提出した。来年度は感染症 BCP を安全衛生グループ職員が作成し、事務局で内容を精査。厚労省の感染予防啓発動画など予防に活かせるものを各施設にあった形に BCP に落とし込んでいく。
⑥アゼリアの備品倉庫整理を協力して行っている。	完了したため、取り組みの予定はない。	完了したため、取り組みはなかった。

<広報担当>

主な業務

①ホームページ管理 ②トラムレター発行 ③「日本ではじめて地域の家族会を築いた男」のPR

重点目標

目標	下半期の計画	令和3年度の報告
①ホームページを見る人を意識し、「見やすさ」「早さ」「正確さ」に特に力を入れて取り組む。	・引き続き「見やすさ」「タイムリーさ」を意識し取り組む。 ・YouTubeチャンネルを活用し、講座など録画した動画を配信。チャンネル開設したこともいろんな機会を通じて周知していく。	・これまで「ブログ」「お知らせ」と分けていたものを「ニュース」に一本化した。 ・YouTubeチャンネル内で令和3年11月24日～同年12月8日まで「ウィズ・アフターコロナ時代のこころの整え方(大野裕先生)」を配信した。令和4年度にも配信講座を行う予定。
②広報されていない事業・活動の報告(法人事業担当グループ、法人全体研修、法人職員の対外活動など)も積極的に行う。	・アゼリアや法人企画の講演会・イベントの記事を掲載。利用者が携わっていれば感想など依頼し掲載。 ・その他タイムリーな話題、荒川ひまわり/荒川ひまわり第2の新商品やおすすめ品の紹介、各業務グループへ記事を依頼し掲載。	・職員が参加した研修報告のほか、サマーボランティアの報告/荒川ボランティアセンター企画講演会の報告(アゼリア)、ヤマト福祉財団助成金での活動報告(荒川ひまわり/荒川ひまわり第2)、地域福祉グループ企画交流イベント/講演会の報告(法人)を掲載した。荒川ひまわり/荒川ひまわり第2の新商品、オススメ商品も掲載している。(令和3年8月号より適時) ・理事会からのご意見を受け、事務的な記事を極力減らし、出来るだけ法人や各施設の活動を知っていただけるようなものを掲載するように努めた。
③昨年度から取り組んでいるインタビュー記事連載(不定期)を継続し、当法人が大切にしていることを伝える。	・感染状況を注視しながら、保留となっている2回目以降の実施を検討する。	・4月号の付録として1回目の記事を発行。以後はコロナの状況から実施に至らなかった。

<地域福祉担当>

主な業務

①精神保健福祉の普及啓発 ②関係諸団体のサポート ③ボランティア関係 ④福祉ニーズの情報収集

重点目標

目標	下半期の計画	令和3年度の報告
①地域の交流や講座等に積極的に参加・開催し、地域とヒトをつなぐ支援構築を目指す。	2月13日(日)、講演会「社会的処方～孤立という病を地域のつながりで治す方法～」の予定。前年度、広報の課題が残ったため、今年度は荒川区の後援、区報掲載に加え、ポスティング等地域に効果的な広報を検討。	講演会には関係機関を中心に40名以上の申込みがあり、手応えを感じられる結果となった。 皆さんの関心のあるテーマを選定できたこと、広報面ではピンポイントで支援機関へ事前に連絡し、チラシを送付/障害者福祉課の協力を得て地域の掲示板にポスターを貼らせてもらえたこと等の効果と思われる。 今回得られた地域の関係機関との繋がりを活かし、来年度も引き続き官民が協働できる地域づくりを目指していきたい。
②精神保健福祉の普及啓発を当事者と共に行い、共生社会の実現を目指す。	11月12日、町屋ふれあい館にて当事者による施設紹介、体験談発表会。 1月7日、アゼリアにて交流のためのワークショップ開催(マスクのアイロンプリント)。 現時点で、ふれあい館からは3月にも同様の交流会を追加で行わないかという打診があった。	ふれあい館での事前学習を含め、全3回の交流事業となった。毎回児童が約10名参加し、関心の高さがうかがえた。当事者による発表では7名の当事者が、アゼリアでの交流会では4名の当事者に協力いただいた。 皆さんの発表への意気込みや成果、交流会での楽しそうな様子は、児童への精神保健福祉啓発という目的にとどまらず当事者にとっても達成感をもたらし、有益な社会参加の場となったと考えている。
③社会福祉法人連絡会に参加し、パントリー事業等に協力していく。	引き続き、新規依頼があれば積極的に引き受けていく。	現在荒川ひまわりで0件、ひまわり第2で4件担当。

施設事業報告

<荒川ひまわり>

重点目標	下半期の計画	令和3年度の報告
<p>①主たる事業所(荒川ひまわり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策を行い生産活動の売上の維持向上に努める。 ・内職・施設外作業を安定的に確保し、やりがいや楽しさを感じる運営を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2部制の解除時期の検討。 ・新たな作業を定着させ、安定確保や売上向上に努める。 ・作業効率を見直し職員の作業負担を軽減することで、支援の質を高め、やりがいや楽しさを感じてもらえる支援を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染による閉所もなく運営を継続でき、徐々に終日通所へ移行することした。 ・安定受注先が見つかり、作業負担、収入減などの課題を軽減することが出来た。 ・施設外作業から障害者雇用につながった。
<p>②従たる事業所(パウンド屋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策を行い生産活動の売上の維持向上に努める。 ・地域のニーズや利用者のやりがいに対応した安全で新しい商品作りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上半期同様に取り組む。注文数の増加に伴う対応方法を検討する ・サマボラ考案レシピの商品化を模索する。 ・メンバー新作は継続。 	<ul style="list-style-type: none"> ・徹底した感染対策により安全安心な店舗運営を継続できた。 ・メンバー発案レシピを商品化して販売。やりがいや業務への張り合いにつながった ・地域ニーズに対応することで、やや強行スケジュールでの製造を余儀なくされたが、収益を上げることが出来た。
<p>③就労定着支援(ジョブサポート)</p> <p>対象者の生活と就労がその人らしく継続的に安定するよう支援を行う。</p> <p>(企業・自宅への訪問、来所支援、関係機関との連絡調整、障害者理解の促進等)</p>	<p>継続</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・就労定着支援の実施初年度だったため、模索しながらの運営だったが、退職者を出すことなく支援を継続できた。その結果、次年度のB型事業加算と就労定着基本報酬を増収とすることができた。 ・担当職員が研修を受け、加算対象となるジョブコーチを取得した。
<p>④危機管理体制の整備</p> <p>各種BCP(事業継続計画)に沿った設備備品の確認、状況に適応した早急な見直しを行う。</p> <p>HACCPの考え方を取り入れた衛生管理の運用と確認を行う。</p>	<p>継続</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・業務担当グループ(安全衛生)や菓子製造を主とする事業体等と協働し、必要な条件整備が出来、内容に沿った防災訓練を実施し確認と見直しを行った。災害や感染症など多岐の危機管理に向けて引き続き内容の検討を継続

ヒヤリハット集計の継続と環境整備を行う。		続する。 ・ヒヤリハットの発見・共有は誠実に対応し毎月の職員会議内で検討、環境整備を行った。
----------------------	--	---

利用者支援	下半期の計画	令和3年度の報告
①就労継続支援事業 ・興味や意欲をもって通所を目指せる活動の提供を行う。 ・就労に向けた具体的な取り組みを行い、就労につながる支援を強化する。	授産活動だけでなく、プログラムやレク等の機会提供についても検討する。 ・障害者雇用に向けた企業訓練支援の実施 ・検査機関を活用した職業検査の実施	・コロナの影響が完全に終息していないことから、次年度への持ち越し案件とした。 ・施設外就労、区委託訓練、企業内研修、区内公共施設における受付業務等、多岐に渡る訓練を実施した。 ・希望者に対し他機関を利用した職業適性検査を実施した。 ・障害者雇用2名輩出
②個別支援計画 ・利用者一人一人の気持ちに寄り添った個別支援計画を策定する。 ・事業所内での定期的な共有を行う。	・サービス等利用計画の更新やモニタリングでも同様に行う。 ・毎月実施を定着させる。	・常勤職員の人手不足や授産事業の多忙により、モニタリングの立会や個別支援計画の立て直しが遅延した。また、職員間の共有も不十分だったため、次年度の課題とした。
③就労定着支援事業 ・就労に伴う不安や生活面の課題の解消を目指した支援を行う。 ・個人と企業との円滑な関係を保つ支援を実施する。	継続	・初年度ながら退職者を出すことなくB型との兼務でありながら十分な支援を実施できた。 ・企業側や企業担当者との障がい理解や支援の方向性共有にはやや課題が残ったため、次年度の課題とした。

◆令和3年度荒川ひまわり実績報告

常勤換算職員数

5.5

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
定員	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	360
登録者(月初現在)	38	38	39	37	37	37	37	37	37	36	35	34	442
開所日数	21	18	22	20	18	21	21	20	20	18	18	22	239
延べ利用者数	606	677	774	650	666	720	525	479	452	364	510	479	6,902
見学	1	0	0	0	0	1	1	1	3	0	0	1	8
体験	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
登録	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
入院中	0	0	0	0	0	0	1	1	2	1	0	1	6
退所(ステップアップ)	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	1	1	5
退所(その他)	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
授産売上	590,287	529,573	633,433	622,360	591,427	539,008	781,923	684,200	893,648	788,540	840,077	1,085,045	8,579,521
平均工賃	10,966	8,233	10,363	12,138	11,910	11,729	13,458	10,898	12,878	16,524	22,416	29,850	171,363
就労準備者	1	1	3	3	4	4	2	2	1	1	1	1	24
就労実績	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
通所率	76%	99%	90%	88%	100%	93%	68%	65%	61%	56%	81%	64%	78%
収入	4,631,763	4,961,315	5,650,827	4,882,434	4,216,569	5,308,256	4,534,143	3,688,338	3,450,039	2,798,090	3,834,755	3,650,750	51,607,279
うち就労定着支援			返戻	103,415	63,469	35,178	35,145	35,145	35,145	35,145	35,145	39,177	416,964
うち処遇改善加算	236,124	252,895	287,329	320,177	211,831	268,668	228,838	186,820	174,187	140,559	192,425	183,028	2,682,881
うち特定処遇改善加算	74,498	79,642	90,619	76,625	66,580	84,600	72,183	58,778	54,848	44,251	60,577	57,610	820,811
一日あたりの収入	220,560	275,629	256,856	244,122	234,254	252,774	215,912	184,417	172,502	155,449	213,042	165,943	215,930
職員一人あたりの収入	842,139	902,057	1,027,423	887,715	766,649	965,137	824,390	670,607	627,280	508,744	697,228	663,773	781,928
人件費	1,890,037	1,906,280	4,421,736	1,636,713	1,615,477	1,648,736	1,688,510	1,659,081	4,072,522	1,545,204	1,528,337	5,421,607	29,034,240
人件費率	40.8%	38.4%	78.2%	33.5%	38.3%	31.1%	37.2%	45.0%	118.0%	55.2%	39.9%	148.5%	56.3%
特記支出(家賃など)	450,000	450,000	450,000	450,000	450,000	450,000	458,000	458,000	458,000	458,000	458,000	458,000	5,448,000
主な支出	2,340,037	2,356,280	4,871,736	2,086,713	2,065,477	2,098,736	2,146,510	2,117,081	4,530,522	2,003,204	1,986,337	5,879,607	34,482,240
月別収支差額	2,291,726	2,605,035	779,091	2,795,721	2,151,092	3,209,520	2,387,633	1,571,257	-1,080,483	794,886	1,848,418	-2,228,857	17,125,039

◆前年度比

	合計	前年度	前年同月比
定員	360	360	100.0%
登録者数(月初)	442	445	99.3%
開所日数	239	240	99.6%
延べ利用者数	6,902	7,342	94.0%
見学	8	22	36.4%
体験	2	12	16.7%
入所	2	12	16.7%
退所	2	8	25.0%
授産売上	8,579,521	7,525,891	114.0%
通所率	78%	83%	94.5%
収入	51,607,279	56,650,114	91.1%
うち就労定着支援	416,964	0	-
1日あたりの収入	215,930	236,042	91.5%
人件費	29,034,240	30,956,793	93.8%
人件費率	56.3%	54.6%	103.0%
主な支出	34,482,240	36,356,793	94.8%

◆令和3年度の所感

<就労継続支援B型の利用状況について>

コロナ感染による長期的な閉所などもなく、状況に応じた対策を実施することで通所実績を維持できた。新規利用者2名、退所者6名(障害者雇用による就労2名)、外部施設や企業での委託訓練や実習に複数名参加。苦情1件については、第三者委員の対応を依頼した。

<就労定着支援の利用状況について>

今年度3名の対象者への支援実施。初年度の報酬単価は労務に対し十分とは言えない印象だが、3名の就労生活を維持することが出来た。

<収支について>

冬季賞与・年度末賞与時に赤字計上となったが、年間を通して黒字計上となり法人への繰り入れが出来た。コロナによる緊急事態宣言下のサービス費請求については異例の措置の為、収入が上がっている経緯もある。次年度以降の収支については同等との確約は無いため、通所率の確保につながる経営が必要かと思われる。

<就労支援事業収益について>

通所対象者人数は大きく減退することなく推移していることに対し、授産(作業)の売上が100万増収となった。コロナによる作業確保や売上確保が厳しい施設が多数ある中、メンバースタッフ共に協力した成果である。

<その他>

育休取得者1名、次年度7月復帰予定

<荒川ひまわり第2>

重点目標	下半期の計画	令和3年度の報告
<p>①工賃の維持向上に努める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策を強化しながら生産活動の売上の維持向上に努める。 ・就労継続支援B型は、平均工賃月額1万円以上を維持し、利用者満足と運営の安定をはかる。 	<p>10～12月は、菓子・縫製の大量受注、1～3月は恒例のスイーツボックスを着実に納品する。</p> <p>ぱぱす・マンション清掃の仕事を継続し、収入を得たい利用者のニーズを充足する。</p>	<p>菓子の受注や新規作業によって収入を維持できたため、B型の工賃は平均月額1万円以上の目標が達成できた。</p>
<p>②利用者がはじめやすい環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・迅速に見学・体験をすすめ、ひまわり第2の利用希望者の待機0を目指す。 ・就労や生活支援について、はじめたいタイミングで支援が受けられるように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・下半期に2名以上の新規利用者を受け入れる。 ・ステップアップできた利用者を見て、意欲が出てきた利用者の就労準備を進める。 	<p>7月から12月の6ヵ月間は施設都合で受入が止まったが、年間で新規利用者を6名受け入れることができた。</p> <p>各利用者の希望に応じて、就労準備は進められたが、見学など施設発信による利用者意識の活性化の機会が作れていなかった。</p>
<p>③地域社会の一員として信頼される施設運営を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止を推進するため、研修やセルフチェックを通して、職員の意識を啓発する。 ・BCP(事業継続計画)整備、HACCPの考え方を取り入れた衛生管理、見える化、等。 	<p>法人会議の中で、虐待研修・セルフチェックと防災講座を実施し、職員の資質向上に努める。</p>	<p>虐待研修の実施により、職員の意識啓発はできた。</p> <p>BCPについては具体的な整備が進まず、その大切さを痛感した一年だった。事業継続に有効なBCPの運用を次年度の課題としたい。</p>

利用者支援	下半期の計画	令和3年度の報告
<p>生産活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業において社会との繋がりを意識し、やりがいと責任感を感じられるよう支援する。 企画や受注段階での利用者の関わりを増やし、積極的に作業に参加していただく。 新規案件に積極的に取り組み、感染症対策と売り上げの維持を両立する。 	<p>授産事業の安定化をはかるため、事業内容のバランスと人員増員も検討する。</p>	<p>令和3年度は7月にベテラン常勤職員が急に欠員したことで、内職・印刷・縫製の3部門が危機的状況だったが、途切れることなく運営できた。利用者やボランティアさんの協力、法人内の連携と、現場職員の努力でなんとか乗り切れた(皆さんに感謝！)</p> <p>そんな中でも、企画への利用者の関わり(SBのおみくじイラスト)、新規案件(清掃作業・チューナー</p>

			解体)などが進められた。
個別支援計画	生活訓練で、基本的な生活習慣(生活リズム、身だしなみ等)が身に着く支援を強化する	通所が安定しない方への連絡を継続する。積極的なケース共有を促し、通所できていない利用者への意識を職員の中で高め、電話等の働きかけに繋げる。	生活支援として、通所により生活リズムを作ることがひまわりの役割だが、その通所率が低下してきている。通所率低下の要因は、利用者の高齢化やコロナ禍の影響はある。しかし、そうした影響により揺らぐ利用者の心理に寄り添う支援が、今年度の職員体制では余裕が無く難しかったと感じる。ひまわりに通所することが安心につながるような運営を次年度は目指したい。
	休みが続いている利用者への支援を強化する。定期的な電話連絡等で繋がりを継続する。		
	外部機関の見学や訓練等を活用して、施設外の社会へつながる視点を大切にする。		

◆令和3年度荒川ひまわり第2実績報告

常勤換算職員数

6

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
定員	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240
月初登録者(B型)	29	30	29	30	31	31	31	31	31	31	32	33	369
月初登録者(生訓)	12	11	11	10	9	8	8	8	8	9	10	9	113
開所日数	21	18	22	21	18	21	21	20	20	18	18	22	240
延べ利用者数(B型)	286	221	266	259	245	278	274	244	245	221	219	273	3,031
延べ利用者数(生訓)	104	91	105	67	65	60	64	46	50	57	58	79	846
見学	2	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	6
体験	1	0	0	0	0	0	0	0	2	4	0	0	7
入所	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3	1	1	6
入院中	1	2	1	2	3	3	3	3	4	3	2	2	29
退所(ステップアップ)	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
退所(その他)	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3
授産売上	353,549	325,116	265,179	277,350	289,033	491,788	436,541	824,987	522,610	519,940	563,270	516,360	5,385,723
平均工賃額	B10456/生3871	B8444/生3211	B7157/生3587	B8108/生5676	B7653/生6033	B10154/生7931	B9811/生5711	B11784/生5754	B13287/生6305	B13840/生4315	B12666/生7757	B11270/生7684	B10386/生5653
就労準備者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3
就労実績	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
通所率(B型)	47%	41%	42%	41%	44%	43%	42%	39%	40%	40%	38%	38%	41%
通所率(生訓)	41%	46%	43%	32%	40%	36%	38%	29%	31%	35%	32%	40%	37%
収入	3,552,077	2,705,692	3,258,676	2,837,942	2,676,805	2,938,812	2,924,684	2,528,960	2,541,832	2,238,823	2,300,374	3,401,363	33,906,040
うち処遇改善加算													0
うち特定処遇改善加算													0
一日当たりの収入	169,147	150,316	148,122	135,140	148,711	139,943	139,271	126,448	127,092	124,379	127,799	154,607	141,275
職員一人あたりの収入	592,013	450,949	543,113	472,990	446,134	489,802	487,447	421,493	423,639	373,137	383,396	566,894	470,917
人件費	1,777,890	1,627,432	4,081,614	1,514,269	1,426,255	1,592,892	1,437,516	1,556,074	3,733,801	1,499,376	1,528,337	5,248,821	27,024,277
人件費率	50.1%	60.1%	125.3%	53.4%	53.3%	54.2%	49.2%	61.5%	146.9%	67.0%	66.4%	154.3%	79.7%
特記支出(家賃など)	418900	418900	418900	418900	418900	418900	418900	418900	418900	418900	418900	418900	5,026,800
主な支出	2,196,790	2,046,332	4,500,514	1,933,169	1,845,155	2,011,792	1,856,416	1,974,974	4,152,701	1,918,276	1,947,237	5,667,721	32,051,077
月別収支差額	1,355,287	659,360	-1,241,838	904,773	831,650	927,020	1,068,268	553,986	-1,610,869	320,547	353,137	-2,266,358	1,854,963

◆前年度比

	合計	前年度	前年同月比
定員	240	240	100.0%
登録者数(月初)	482	486	99.2%
開所日数	240	240	100.0%
延べ利用者数(B型)	3,031	3,579	84.7%
延べ利用者数(生訓)	846	1,149	73.6%
見学	6	22	27.3%
体験	7	6	116.7%
入所	6	6	100.0%
退所	5	4	125.0%
授産売上	5,385,723	4,223,899	127.5%
通所率(B型)	41%	0%	-
通所率(生訓)	37%	42%	87.8%
収入	33,906,040	40,374,610	84.0%
1日あたりの収入	141,275	168,228	84.0%
人件費	27,024,277	29,065,966	93.0%
人件費率	79.7%	72.0%	110.7%
特記支出	5,026,800	6,047,900	83.1%
主な支出	27,024,277	35,113,866	77.0%

◆令和3年度の所感

<p><就労継続支援B型の利用状況について></p> <ul style="list-style-type: none"> 年間通所率が41%と、低迷している。 体調不安定・コロナ禍への不安・高齢化による体力低下等が主な欠席理由。 A型事業所へのステップアップ1名 就労移行支援事業所へのステップアップ1名。 <p><生活訓練の利用状況について></p> <ul style="list-style-type: none"> 7月から12月の6か月間は施設都合で新規利用者の受入停止等により、延利用者数が低迷した。 登録後、通所が安定しないまま長期入院に突入するケースがあった。 退院後の地域の受け皿として、籍は残す方針で対応しているが、2年間の利用期限がある。 支援が難しい場合は一旦退所を提案したいが見極めが難しい。 <p><給付収入について></p> <ul style="list-style-type: none"> B型・生訓とも利用低迷により、減収。 <p><就労支援事業収益について></p> <ul style="list-style-type: none"> 内職・印刷・縫製の仕事は定番の受注が回復していることと、製菓は、イベント販売が中止されても受注が増えたことで、昨年度より利益・工賃が増加。 B型の年間平均工賃は1万円を超え、目標は達成できた。 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> B型の定員超過のリスク回避のため、2年後に入ってくる生活訓練の登録を予測しながら進めることが困難。

<支援センターアゼリア>

重点目標	下半期の計画	令和3年度の報告
①地域で安心して生活できるよう支援を行う ・一般相談、計画相談ともに利用者の地域生活を意識して行う。 ・日々の人員配置を工夫し意識的に利用者の話を聞く機会を作る。	引き続きフロアや相談電話で利用者のニーズを汲み取る	前年度に比較して電話相談件数及び面談件数が更に増加している。他所からの電話が繋がりにくい弊害があるものの、職員の増員により対応範囲は広がった。
②安全に配慮した地域交流を行う ・支援センターI型の利点を活かし利用者と地域が豊かに交流できるイベント等を企画する。	感染状況を見ながら対面でのプログラムの機会も増やしていく	前年度から継続して大きな交流イベントは中止となったが、オンライン活用や他所とのコラボの機会が増えている。
③ピアスタッフの活躍の機会を増やす ・利用者のリカバリーを促進するため、ピアスタッフの視点や関わりを活用する。 ・ピアコンサルテーション（仮）導入し、ピアの活性化を図る。	ピアスタッフによるレターへの連載や他スタッフとの面談実施の機会を持つ	前年度はピアコンサルテーション研究に事業所として協力した。ピア活用や交流について外部からアドバイスを貰い実践することができた。
④「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」への参加 ・荒川区での「協議の場」に参加する。 ・アゼリアでの個別支援の実践から得られた課題を自立支援協議会及び他会議体へ発信する。	引き続き自治体や他事業所と連携しての支援や、地域づくりの視点を意識し、各会議体で発信していく。	荒川区自立支援協議会、荒川区精神保健福祉協議会に参加、地域移行支援や生活支援拠点運用に協力することができた。

利用者支援		下半期の計画	令和3年度の報告
プログラム	利用者ミーティング等を通じて地域のニーズを知り、適切なプログラムを企画・開催する。	引き続きミーティング等で意見交換やニーズの聞き取りを行う。	年3回の利用者ミーティング、年1回の利用者アンケートを実施した
	利用者の安全に配慮した方法で実施する	継続する。	オンライン講座を積極的に実施した。
り ず む	担当者会議で個々の利用目的や目標を職員間で共有し、安心した居場所を提供する。	今後のプログラム運用について利用者と話し合いの機会を持つ。	感染予防から開催回数を調整したが、週2回で定着し参加者が徐々に増えた。
相 談 一 般	個々に丁寧に応じ、必要に応じて事例検討を行う。 フロアでの交流や関わりから支援の可能性を検討する。	引き続き必要に応じて事例検討を行う	職員が意識して受付やフロアに滞在する時間帯を増やした。

相 談 特 定	事例検討や制度の確認等を通して、事業所として計画の質の向上をはかる。	引き続き地域の会議等に参加する	相談支援の連絡会や研修に参加し、指定管理事業とのバランスを取るようにした。
	担当者ごとの強み・得意分野を生かせる振り分けを行う。	引き続き研修の機会を確保し、共有することで強みや得意分野を伸ばす。	各職員が興味ある分野の研修を中心に参加し、会議や書面で職員と共有した。

◆令和3年度アゼリア実績報告

常勤換算職員数 7.965

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計		
実績	地活	新規登録	11	6	8	10	8	6	14	8	7	4	7	13	102	
		電話件数	1,605	1,678	1,672	1,654	1,826	1,918	2,054	2,072	1,869	1,785	1,674	2,038	21,845	
		面談件数	349	385	319	391	294	303	361	386	266	290	324	327	3,995	
		訪問件数	61	58	47	42	30	50	52	56	59	46	40	44	585	
		来館者数	550	461	477	556	450	500	557	585	472	455	392	518	5,973	
		プログラム実施数	29	22	27	29	26	25	28	29	31	31	30	30	32	339
		プログラム参加者数	216	126	165	163	130	153	176	209	172	186	205	209	2,110	
	特定相談	新規・更新・変更	11	15	12	7	5	6	6	12	9	10	10	10	113	
	モニタリング	27	22	24	31	19	32	16	21	24	22	19	28	285		
収入	指定管理費収入	4,647,500	4,647,500	4,647,500	4,647,500	4,647,500	4,647,500	4,647,500	4,647,500	4,647,500	4,647,500	4,647,500	4,647,500	55,769,999		
	特定相談事業収入	483,062	483,062	483,062	483,062	483,062	483,062	483,062	483,062	483,062	483,062	483,062	483,062	5,796,746		
支出	人件費総額	2,689,823	2,594,822	5,702,376	2,628,952	2,539,345	2,819,693	2,916,823	2,933,361	6,643,459	2,733,094	2,779,670	7,716,438	44,697,856		
	指定管理費に占める割合	57.9%	55.8%	122.7%	56.6%	54.6%	60.7%	62.8%	63.1%	142.9%	58.8%	59.8%	166.0%	80.1%		
	人件費	予算	¥2,859,400	¥2,859,400	¥2,859,400	¥2,859,400	¥2,859,400	¥2,859,400	¥2,859,400	¥2,859,400	¥2,859,400	¥2,859,400	¥2,859,400	¥2,859,400	¥34,312,802	
		執行額	¥2,481,544	¥2,594,822	¥5,702,376	¥2,628,952	¥2,539,345	¥2,819,693	¥2,916,823	¥2,933,361	¥6,643,459	¥2,733,094	¥2,779,670	¥7,716,438	¥44,489,577	
		月ごとの予算執行率	87%	91%	199%	92%	89%	99%	102%	103%	232%	96%	97%	270%	130%	
	特記支出		300000	300000	300000	300000	300000	300000	300000	300000	300000	300000	300000	300000	3,600,000	
	主な支出		2,989,823	2,894,822	6,002,376	2,928,952	2,839,345	3,119,693	3,216,823	3,233,361	6,943,459	3,033,094	3,079,670	8,016,438	48,297,856	
	支出累計		2,989,823	5,884,645	11,887,021	14,815,973	17,655,318	20,775,011	23,991,834	27,225,195	34,168,654	37,201,748	40,281,418	48,297,856	285,174,496	
	執行率		5%	11%	21%	27%	32%	37%	43%	49%	61%	67%	72%	87%	87%	

◆前年度比

		合計	前年	前年度比
地活	新規登録	102	59	172.9%
	電話件数	21,845	20,906	104.5%
	面談件数	3,995	3,209	124.5%
	訪問件数	585	676	86.5%
	来館者数	5,973	4,320	138.3%
	プログラム実施数	339	248	136.7%
	プログラム参加者数	2,110	1,346	156.8%
特定相談	新規・更新・変更	113	125	90.4%
	モニタリング	285	265	107.5%
指定管理費収入		55,769,999	54,218,394	102.9%
特定相談事業収入		5,796,746	4,680,273	123.9%
人件費総額		44,697,856	45,494,281	98.2%
指定管理費に占める割合		80.1%	83.9%	104.7%
常勤	予算	¥34,312,802	¥38,964,920	88.1%
	執行額	¥44,489,577	¥41,536,691	107.1%
	月ごとの予算執行率	130%	107%	121.6%
パート	予算	¥4,427,388	¥4,442,511	99.7%
	執行額	¥208,279	¥3,957,590	5.3%
	月ごとの予算執行率	5%	89%	5.3%
特記支出		3600000	3600000	100.0%
主な支出		48,297,856	49,094,281	98.4%
主な支出(累計)		285,174,496	282,795,517	100.8%
執行率		87%	91%	95.6%

◆令和3年度の所感

<一般相談について>	昨年度に比較して電話と面談での相談件数が増加。新規登録も倍増した。常勤職員が増えたことで増加した面談のニーズに対応することができた。
<計画相談について>	新規受入件数は若干減ったが、実人数に対して必要に応じたケアを増加させたり加算を取得できるようになったため、結果的に収入増となった
<収支について>	コロナの影響で未実施の事業があったため、例年より多めに返還することになった。他については概ね予定通りに予算を執行することができた。
<支出について>	8月から常勤7名体制となり常勤の人件費に占める割合が増加した。アルバイトの予算はピアスタッフが体調不良で休んだため、執行率が低かった。(人件費の執行率が100%を超えているのは指定管理費外の処遇改善加算が含まれているため)
<人員配置について>	8月より常勤7名、ピアスタッフ1名、電話相談5名となり、必要十分な配置ができた。
<その他>	感染状況と人員体制に合わせて可能な範囲の事業を実施した。専門職とピアスタッフ中心に比較的丁寧な支援ができた年度だった。

<ホームとらむ>

重点目標	下半期の計画	令和3年度の報告
①空室を減らし、待機者を確保しながら運営の安定を目指す。	今後もサテライト1室は隔離のために開けておく必要があると思われるので、残りの1室を埋めていく。	令和3年度はサテライト1室はコロナ対応がひつようとなった際の隔離部屋として確保し、残り1室は10月から利用となった。 本体の空室期間は空室保障で賄うことができた
②感染拡大防止の対策を取りながら、支援の質を落とさないように努める。	引き続き感染拡大防止の対策を取りながら、支援の質を落とさないように努める。	BCPにおける感染症やコロナ感染における職員や入居者の対応について、職員で話し合い検討することができた
③地域移行部会で取り組んでいるショートステイの事業化実現に協力する。	引き続き地域移行部会で取り組んでいるショートステイの事業化実現に協力する。	令和2年度に住まいの確保の課題が抽出されたが、今年度はショートステイの事業化については検討できなかった。
④業務や支援に必要なマニュアルの整備を行い、書式の統一等を図っていく	10月より職員の復帰が叶ったため、必要なものからマニュアルの整備や、書式の統一等を行っていく。今後の職員異動を見据えて、業務日誌や処遇記録、国保連請求などが連携しているソフトを探して、引き継ぎなどが効率よく行えるようにしていく。	2社のソフトを検討し、次年度に最終決定を行えるよう準備できた。マニュアル整備や書式の統一については完了できた部分もあった。

利用者支援	下半期の計画	令和3年度の報告
個々の性格に合った食事や家事の方法や、様々な社会資源の活用や、やり方を一緒に考え、単身生活に活かしていけるよう実践していく。	引き続き個々の性格に合った食事や家事の方法や様々な社会資源の活用、やり方を一緒に考え、単身生活に活かしていけるよう実践していく。	入居者個々に合わせた家事全般の支援を行いながら、コロナにより回数が減っていた夕食会を少しずつ増やしていくことができた。一方で共同生活における支援が難しい入居者対応があり、関係者と連携しながら検討した。

◆令和3年度ホームとらむ実績報告

2.342

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
定員	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
入居者数	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	5	60
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
延べ利用者数	180	145	150	155	155	150	155	150	155	155	112	143	1,805
見学	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
体験	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
入居	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
退居	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3
稼働率	86%	67%	71%	71%	71%	71%	71%	71%	71%	71%	57%	66%	71%
共同生活援助収入	1,575,547	1,553,945	1,471,700	1,497,743	1,497,870	1,452,790	1,497,035	1,446,900	1,501,232	1,596,162	1,530,381	1,711,263	18,332,568
うち処遇改善金加算	69,855	79,249	72,128	74,518	74,518	70,040	74,460	70,261	73,822	78,276	59,496	72,755	869,378
うち特定処遇改善加算	17,887	17,513	15,938	164,610	164,610	15,938	16,448	15,996	16,309	17,295	13,131	16,077	491,752
うち自立生活援助収入	0	51,744	40,544	34,944	34,944	40,544	34,898	34,898	40,498	34,898	40,498	49,498	437,908
1日あたりの収入	52,518	50,127	49,057	48,314	48,318	48,426	48,291	48,230	48,427	51,489	54,656	55,202	50,226
職員一人あたりの収入	672,736	663,512	628,395	639,515	639,569	620,320	639,212	617,805	641,004	681,538	653,450	730,684	652,312
人件費	647,126	646,061	1,672,573	519,096	544,066	590,453	572,482	667,735	1,520,284	682,943	755,401	1,969,963	10,788,183
人件費率	41.1%	41.6%	113.6%	34.7%	36.3%	40.6%	38.2%	46.1%	101.3%	42.8%	49.4%	115.1%	58.4%
特記支出	500000	500000	500000	500000	500000	500000	500000	500000	500000	500000	500000	500001	6,000,001
主な支出	1,147,126	1,146,061	2,172,573	1,019,096	1,044,066	1,090,453	1,072,482	1,167,735	2,020,284	1,182,943	1,255,401	2,469,964	16,788,184
月別収支差額	428,421	407,884	-700,873	478,647	453,804	362,337	424,553	279,165	-519,052	413,219	274,980	-758,701	1,544,384

◆前年度比

	合計	前年	前年度比
定員	7	7	100.0%
入居者数	60	50	120.0%
開所日数	365	365	100.0%
延べ利用者数	1,805	1,497	120.6%
見学	2	5	40.0%
体験	1	7	14.3%
入居	2	4	50.0%
退居	3	1	300.0%
稼働率	71%	59%	120.3%
共同生活援助収入	18,332,568	17,230,364	106.4%
うち処遇改善金加算	869,378	537,218	161.8%
うち自立生活援助収入	437,908	130,453	335.7%
1日あたりの収入	50,226	391,347	12.8%
人件費	10,788,183	14,334,253	75.3%
人件費率	58.4%	84.1%	69.4%
特記支出	6000001	5415000	110.8%
主な支出	16,788,184	19,749,253	85.0%

◆令和3年度の所感

<利用状況について>

大概の方は入居して数ヶ月たつと様々なことがでてくるが、共同生活における支援が難しい入居者対応があり、関係者と連携しながら検討していった。

<収支について>

感染対策のためサテライトは1室空室のまま、他にも1室空室が続いていたが、地域生活移行個別支援特別加算がとれていたこともあり、収入が落ち込むことはなかった。

<自立生活援助について>

5月から2名の支援を行ったが、今年度は一人暮らしへ移行する人がいなかったため人数が増えないままだった。

<職員体制について>

年度初め常勤1名が休職した状況で始まったが、6月から非常勤で1名採用を行い、9月から休職していた職員が非常勤で復帰を果たし、後半は手厚い体制をとることができた。

<その他>

年度初めの人手不足の時は法人内で応援をもらい、感染状況が厳しい中にもかかわらず、入居者の安全を確保することができた。